

令和7年6月12日

令和6年度 学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会

[評価委員]

- ・ **福永 成明氏 (委員長)**
ファッションビジネス学会 専務理事
有限会社 ファッションリンクス 代表取締役
- ・ **伊藤 雅彦氏**
株式会社 西銀座デパート 取締役
合同会社グリシーヌインターナショナル CEO

【ファッション教育を取り巻く状況】

- ・ 世の中が大きく変容しているように、ファッション（ファッションビジネス）の世界も新たな時代を迎えている。その最たるものがDXであり、サステナブルなど社会変革への対応である。eコマースが常態化する一方で、生成AIがファッション分野でも導入されつつある。
- ・ サステナブルにおいても単に廃棄物の抑制だけでなく、これを資源化するアイデアが求められている。
- ・ ファッション市場は国内では縮小傾向にあるが、世界的には成長が約束されている。それへのグローバルな対応も専門学校として視野に入れておく必要がある。
- ・ 学生応募が低迷している理由で「ファッションビジネス科」が募集停止されているが、ファッションビジネスの要素である「創工商」の一つを欠いた状況は、教育機関として改善すべきものといえる。
- ・ 学生数を増やすためには、抜本的な機構改革が求められ、「ファッションビジネス科」の復活というよりはeコマースに対応したスタイリストの養成などを含めて、新たな学科コースを検討すべきと考える。
- ・ サステナブルの進行とともにアップサイクルを含めて、生活者のホームソーイングの潜在的なニーズが高まっており、短期コースの「モノづくり」コースも検討の余地がある。

基準 1 教育理念・目的・人材育成像

- ・ 理念・目的・育成人材像

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 産学連携をはじめサステナブル、ポップアップなど実務教育が活発になっている点は評価できる。

- YouTubeをホームページに載せたこと、また新入生に入学前にYouTubeを見せることは、今の若い年代層に向けた新しい試みとして、大変良いことだと思う。
- 本学園の建学の精神「挑戦の精神」「創造する力」「自立する能力」は、学校生活すべてにわたる根本の部分であり、それを知っていると答えた学生が昨年の17.8%から今年は13.4%とかなり下がったのは、あまり良いことではないと思う。もっと教育理念を周知徹底すべきと思われる。
- 理念の知名度は高まったが、次のテーマは理念の体感である。個々の学生が3つの理念をどのように吸収するか。なかでもファッションにとっては「挑戦の精神」は、どんな職種でも必要になる。創業者が若き日に渡米したこと、また帰国後に洋裁の普及に尽力したことなど、リアルな体験が当学園には存在する。このあたりをいかに教え、体感してもらおうかのプログラムも欠かせない。

【学校の見解】

- 教育理念の浸透度を測るため、令和7年3月に学生を対象としたアンケートを実施。学生が教育理念について、どれほど認知しているかを確認するのが目的。結果として理念の認知度は90%にまで達し、学生たちの教育理念への理解が着実に広がっていることが明らかになった。
- 審査会やその他の教育現場で、教員が教育理念について触れるコメントを積極的に行うようになった。これにより、教員と学生の間における理念共有が促進され、理念が教育現場で自然に組み込まれる流れが生まれている。
- 当校には、アントレプレナーとして卓越した功績を持つ偉大な創立者をもつ。この創立者の精神や哲学を学生にアピールすることで、教育理念を深く浸透させるだけでなく、学生たちに新しい目標やインスピレーションを与えることができる。これにより、理念の浸透が単なる認知に留まらず、学生の成長に直結するものとなる。
- 教育理念の普及と理解促進に向けた一連の活動は、確実に学生たちの意識に影響を与えており、今後もさらに効果的な手段を模索し続ける必要がある。創立者の偉業や理念を最大限活用し、全ての構成員が理念を共有し、実践できる環境を育む努力を継続していく。

基準 2 学校運営

- 運営方針
- 事業計画
- 運営組織
- 人事・給与制度
- 意思決定システム
- 情報システム

【学校関係者評価委員 所見】

- 重点項目に『学生募集の強化』が毎年掲げられている。昨年と比べて特段工夫した点が見受けられなかった。
- 基準8の財務の欄にも、財務状況悪化の主要因として「入学者及び在籍学生数が低減して

おり、授業料をはじめとする学生生徒納付金収入が減少したことが要因」と書かれており、「重点項目」に掲げる以上は、もっと具体的な強化策を立てないといけないのではないだろうか。

- ・ 「インターネットで検索しても表示されない問題は現在解決されており」とあるが、確かに名前は表示されるようにはなったが、検索した際に「東京のファッション専門学校・スクール人気ランキング示されるようにはなったが、検索した際に「東京のファッション専門学校・スクール人気ランキング1～10位」というサイトが上位に表示されたが、それを見ると本学院は第8位だった。本学院よりも歴史が浅く知名度が低い学校より本学院がランキング低いのは、あまりいい傾向ではないので、何らかの対策を立てた方がよいと思う。1～10位」というサイトが上位に表示されたが、それを見ると本学院は第8位だった。本学院よりも歴史が浅く知名度が低い学校より本学院がランキング低いのは、あまり良い傾向ではないので、何らかの対策を立てた方がよいと思う。

基準 3 教育活動

- ・ 目標の設定
- ・ 教育方法・評価等
- ・ 成績評価・単位認定等
- ・ 資格・免許取得の指導体制
- ・ 教員・教員組織

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 最近の就職前線では、インターンシップの比重が益々高くなってきているので、このような取り組みはどんどん積極的に取り組むことが肝要である。
- ・ 教員の実務体験を拡充。
- ・ リアルな生産実務を習得する一つとして、「生産指図書(指示書)」の作成が重要と思われる。
- ・ ドレメにとっての“教育の質”を全教員が共有する。
- ・ 「ファッションシステム」が教育の基盤となる。クリエイションとテクノロジー、そしてビジネスを一体化したときにファッションシステムは生まれる。

【学校の見解】

- ・ DXなど教員の実務研修はどのように成果を上げるかについては、実際に生成AIの研修会に参加したり、令和7年度より3年生以上に『3Dモデリング』の授業を取り入れ教員も授業に参加して一緒に実習している。
- ・ 「授業評価アンケート」の内容と評価基準については、結果のフィードバックとして、各教員が“数値の分析”と“改善策”を書き、次年度の授業の改善に努めている。
- ・ DX、なかでも各科共通でECの仕事のワークショップ形式で学べる仕組みについては、取り入れていきたいが、教えられる教員が今はいないので検討したい。
- ・ 最近の就職前線では、インターンシップの比重が益々高くなってきているので、このような取り組みはどんどん積極的に取り組むことが肝要である。
- ・ 「生産指図書(指示書)」の作成が重要性については、縫製指示書は書いているが、自分で書いて自分で縫製している。過去に産学連携授業によって縫製工場で縫い、検品作業

まで行ったことはある。良い経験だったので今後も産学連携授業で取り入れることを検討したい。

- ・ ドレメにとっての“教育の質”を全教員が共有するについては、オープンキャンパス等で言えるよう全教員が共有していく。

基準 4 学修成果

- ・ 就職率
- ・ 資格・免許の取得率
- ・ 卒業生の社会的評価

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 最近のアパレル各社は人集めに苦労している。例：パルグループでは令和7年度の新入社員（販売職）の採用目標は600名だったが450名しか採用できなかったとのこと。そのため、令和8年度の新卒初任給（4年制大卒）は月給30万円にするとのこと。（短大卒、専門学校卒も4年制卒の初任給に比例して上げるとのこと）
- ・ 現在は売り手市場なので、積極的に取り組むべきと思う。（伊藤）

【要望】

- ・ ファッションビジネス科が募集停止しているものの、ビジネス関連のスキルアップは必要である。なかでもDX化にともない「データサイエンティスト」の初級程度の学習は各科で検討すべきと思われる。

基準 5 学生支援

- ・ 就職等の進路
- ・ 中途退学への対応
- ・ 学生相談
- ・ 学生生活
- ・ 保護者との連携
- ・ 卒業生・社会人

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 「10年間分の退学・除籍者数集計データを見ると、1年次の退学者が2年次以降の数値を大きく上回っている」とあるが、毎年その文言が変わっていない。ということは「改善されていない」と取れる。
- ・ 改善するためには、10年単位で見るのではなく、1年ごとに見ていく必要があるのではないかと思う。1年ごとに見ていくことで、良くなっているのか悪くなっているのか、その推移も分かり、また「その原因を探り出し、そして翌年にその具体的な対策を立てて実行する」といったPDCAサイクルを地道に回すことが改善につながると思う。
- ・ わが国のファッション業界が小売市場を含めて縮小化傾向にあり、また企業のブランド再整備等によってブランド数が減少、それにともないデザインやパターンメークなどの職種でも増加が見込めなくなっている。それだけに就職先の職種希望の達成が厳しくなり、これへの対応は企業との親和性を高める必要がある。この親和性をどのように向上

させるかは、校友会との連携が欠かせない。

【学校の見解】

- ・ この件は学校として大切な部分であり、データとして残し検討している。
実際は平成30年より「退学・除籍者経緯報告書」として退学に至るまでの具体的な経緯を共有ホルダーに保管している。また学科ごとの会議においては学業遅滞者などの様子も話し合われている。
- ・ 今年度の対策としてはオープンキャンパスにおいて個別相談を積極的に行い、学びについての理解を深めてもらう努力をしている。
- ・ 今年度は発達障害の学生が2、3名いることが入学してからわかり、担当教員はその対応をしている。
- ・ 次年度においてはこの点も文章に加筆し対応したいと考えている。

基準 6 教育環境

- ・ 施設・設備等
- ・ 学外実習・インターンシップ等
- ・ 防災・安全管理

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 耐震化については、財政状況を鑑みながら行っていかなくてはならないので、非常に難しい問題であると認識している。しかしながら、学生たちの安心・安全は最優先で行っていかなくてはならない。「令和10年までに耐震化100%」の目標に向けて、しっかり計画立案し、実行に移して頂きたい。

* 文科省は私立学校施設の耐震対策等について、令和10年度までに完了するとしており、杉野学園の耐震建物についても令和10年度までの耐震化完了計画書を作成して文科省に提出している。これを達成出来ないと補助金返還と言うことになりかねないのでしっかり実行に移して行きたい。また杉野学園のホームページでは、「学園の案内」⇒施設・設備のところに施設名を挙げて、個別に何年度まで耐震化を完成させると公表している。

基準 7 学生の募集と受入れ

- ・ 学生募集活動
- ・ 入学選考
- ・ 学納金

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 昨年度も申し上げたが、社会人の「リスクリング」が現在注目されているので、積極的に実施すべきだと思う。
- ・ 令和4年度から3年連続「社会人対象のオープンキャンパスを開催し、社会人入学者の確保に努める。」と記載されていたが、社会人対象のオープンキャンパスは実施されたのか？もし、実施したのであれば、その報告も記載した方がよいと思う。実施してないのであれ

ば、3年連続とただ単に書いてあるだけという結果になってしまうので、今年度こそは実施していただきたい。

【学校の見解】

- ・ 学生応募が少ないのかについては、(学校の)認知度が低いことが一因と考えている。
(検索エンジンについてはお金をかければかけるほど上位に上がってくるしくみになっているが、かけられる経費に限度があるため、ファッション・服飾・専門などのキーワードで検索した場合なかなか上位に上がってこない)
- ・ 服飾分野を志願する生徒が減少している。90%を切っている少ないパイを取り合っている現状があると考えている。
- ・ 高校が進学校化しているため、専門へ行くなら大学へ行くようにと高校で進路指導が入ると聞いている。
- ・ 直接高校生に会えて、ドレメの魅力を伝えられる進路ガイダンス、出張授業については、今までは、授業時間と重なってなかなか先生方に参加していただけなかったが、今年度は、協力いただき多数参加しています。令和8年度の募集につながれば良いと思っている。
- ・ 留学生が少ないことについては、20%を限度に増やしたいと思っている。る日本語学校などで実施しているガイダンスにも参加しているがなかなか来ない。中国の留学生の傾向として学位を目的にしていると考えられるため、大学には入学者が増えている。
- ・ ネット配信担当教員の業務内容は、入試広報課の職員がSNS担当者として、各教員からの情報、或いは直接取材して日々更新し、UPしている。
- ・ ドレメの魅力を再構築するについては、4月のオープンキャンパスに来校した高校生が、ドレメは縫製がきれいだが、文化は雑できれいではない。技術力はドレメと思うが文化服装学院に行くか迷ってなかなか決められない、との話があった。やはり、ドレメの魅力は「技術力」と確信している。このことを貫いていく事が「教育の質」に繋がっていくと考えている。
- ・ 社会人の「リスキリング」については、是非進めていきたいと思っている。
- ・ 社会人オープンキャンパスについては、ナイトオープンキャンパスの実施を試みたが、一人も参加がなかった。今年度の実施については、HP での告知ではなく募集の方法等検討して改めて実施していきたい。

基準 8 財務

- ・ 財務基盤
- ・ 予算・収支計画
- ・ 監査
- ・ 財務情報の公開

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 「経常収支差額が支出超過の状態が続いている」という状況下、「支出削減」では「人件費の抑制」等、様々な対策を立ててご苦労されている状況がよく理解できる。
- ・ 昨年の入学定員を90名減らしたことも、本年はファッションビジネス科の募集を停

止したことは苦渋の決断であったと思われる。ただ、「支出削減」面での具体的な対策はよく理解できたが、「収入増加」面での具体的な対策があまり見えてこないのは残念である。

- ・ 支出削減策もできる範囲が限られているので、財政面での改善を今後図っていくためには、やはり「入り」の部分の学生数を増やすための対策強化が急務と思われる。

基準 9 法令の遵守

- ・ 関連法令・設置基準等の遵守
- ・ 個人情報保護
- ・ 学校評価
- ・ 教育情報の公開

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 種々のハラスメント対策も引き続き厳正に行われているようで、特に問題点は見当たらない。ハラスメント問題は、一般企業だけではなく、学校運営においても一旦起こると場合によっては根幹を揺るがすような命取りともなりかねないので、引き続き厳正に対処することが望まれる。

基準 10 社会貢献・地域貢献

- ・ 社会貢献・地域貢献
- ・ ボランティア活動

【学校関係者評価委員 所見】

- ・ 国際交流に関しては、「中国の専門学校生向けの研修」や「本学院生向けの海外研修」が、「世界情勢の不安定」が理由で中断しているようだが、地域をきちんと選べば実施可能なのではないか。
- ・ 令和7年度からは計画をリスタートし、令和8年度実施に向けて動き出してもいいのではないだろうか。そういったことも学校の魅力を増すことにもなるし、受験する学校を選ぶ際の重要な要因に繋がって行くと思う。

【学校の見解】

- ・ 国際交流については、徐々に交流を再開している。昨年イタリアの学校と提携を結んだ。
- ・ 来年2月頃には、ニューヨーク研修旅行・イタリア研修旅行の企画を考えている。